

学位論文審査結果の要旨	
学位申請者 氏名	Raulston Derrick Gillette
審査委員	主査 鹿児島大学 教授 坂井教郎
	副査 鹿児島大学 教授 豊智行
	副査 佐賀 大学 准教授 辻一成
	副査 鹿児島大学 教授 李哉法
	副査 佐賀 大学 教授 藤村美穂
審査協力者	
題目	Evaluation of the role and impact of contract farming on rice farming in Guyana (ガイアナの稲作における契約農業の役割と影響の評価)
<p>ガイアナにおいて米は国民の主食であり、稲作は国内総生産の3.3%、農業総生産の20.5%を占め、約16,000人の農家の生活を支えている。しかし、その重要性と政府の取組みにもかかわらず、多くの問題が稲作農家の生産性と収益性の向上を阻んでいる。その中に、契約農業の問題がある。契約農業とは、農家と企業との間で、口頭または書面により、農産物の生産・販売条件を指定した契約が行われる農業のことである。</p> <p>先行研究は、契約農業の役割を、リスクの共有、安定した市場、生産資材、機械設備、信用、技術・知識の供給源としている。したがって先行研究の一般的な結論は、契約農業は農家の収益性を向上させ、契約作物に特化するインセンティブを与え、農家は金銭的利益が見込まれる場合にのみ契約を結ぶ、というものである。</p> <p>しかし、既存の研究が扱っていない論点の一つは、契約農業の役割や農業経営への影響と、作物の価格水準との関係である。すなわち、価格水準の違いが、契約農業の役割や農業経営への影響にどのように作用するかは、これまで研究されてこなかった。だが、価格は農家の収益性に直結し、生産意欲を左右する重要な要素である。</p>	

そこで本論文では、異なる米の価格水準（高米価と低米価）の下での契約農業の役割と収益性および農業経営への影響についての評価を行った。

そのために、ガイアナのマハイカ・バービス地区およびエセキボ島・西デメララ地区の農家303名を対象に、家族の属性、農業の収益性、契約農業への参加の有無等に関するデータを収集した。分析には、独立標本T検定、ロジスティック回帰等を用いた。なおガイアナの稲作における契約は、播種前に稲作農家と精米工場との間で結ばれる。

明らかになったのは以下の点である。

高米価の状況の下では、契約農家は非契約農家よりも収益性が高い。これは収穫後に、より良い価格の精米工場を探索できる非契約農家に比べ、事前に価格が決まっている契約農家の米の価格水準は低いものの、契約農家は精米工場から信用で購入できる肥料を多投することにより、収量が増加するためである。また契約を行う理由としては、肥料の入手の他に、生産リスクの共有、安定的な市場へのアクセス、工場による融資も含まれた。そして農業経営は稲作部門に特化する傾向があった。

一方、低米価の状況の下では、契約農家は非契約農家よりも収益性が低くなる。これは、契約による販売価格の低さと資材投入の少なさにより、米の収量が低いためである。それでも契約は、生産リスクを共有し、信用による肥料の供給源であるため、一部の農家は契約を結ぶことになる。ただし低米価の下での契約農家には、低収益を補うために他作物への転換や家畜の飼育など、より高付加価値な農産物に生産を転換させるインセンティブが働いている。これは結局、精米工場の集荷量の減少につながっている。

このように、ガイアナにおける契約農業の役割は、リスクの共有や肥料の信用による購入の面では米価の高低に関わらず共通しているものの、低米価の下では、契約農業が農家と精米工場の双方に悪影響を与えていることから、基本的には米価水準の向上が双方にとってプラスに働くことを明らかにした。また、低米価が維持される場合には、農業保険や農業金融の整備が、生産資材へのアクセスが困難な農家に有効な施策であることが示唆された。

以上のように、本研究は膨大な数の農家調査により、価格水準の違いという新たな視点から契約の役割や農業経営への影響を定量的に把握し、途上国の契約農業に関する研究の進展に貢献した。よって博士（農学）の学位論文として十分な価値を有するものと判定した。